

県内総合

建設情報*Iwate*

22年度の完成は9カ所

県の震災復興・復興ハード事業の進捗状況

県が実施している東日本大震災に係る復旧・復興事業（ハード事業）のうち、19カ所が21年度内に完成の見込みで、9カ所は22年度の完成を目指すこととなった。県では「今後も現場状況に応じた工夫を重ね、一日も早い完成に向けて取り組んでいく」としている。

21年度の完成が見込まれる19カ所のうち、既に完成しているのは復興支援道路に位置付けて整備を進めてきた「国道397号小谷木橋」の1カ所。年度内の完成予定となっているのは、海岸保全施設8カ所（農林水産部3カ所、県土整備部5カ所）、復興まちづくり（まちづくり連携道路）3カ所、復興道路等（復興支援道路・復興関連道路）3カ所、漁港2カ所、港湾1カ所、公園1カ所の計18カ所。

当初想定していなかった地質状況による工法の変更や、他事業との調整などにより、22年度内の完成を目指すこととなったのは9カ所。内訳を見ていくと、海岸保全施設6カ所（農林水産部3カ所、県土整備部3カ所）、復興まちづくり（まちづくり連携道路）1カ所、復興道路等（復興関連道路）1カ所、漁港1カ所。海岸保全施設の閉伊川水門（宮古市）については、これまでの通り26年度の完成予定

となっている。

22年度の完成を目指す事業個所は以下の通り。事業個所名に続き①所在市町村②完成予定③所管部局一の順。

- 〈海岸保全施設〉
 - ▽島の越漁港海岸防潮堤①田野畑村②23年3月③農林水産部
 - ▽船越漁港海岸防潮堤①山田町②23年3月③農林水産部
 - ▽綾里漁港海岸防潮堤①大船渡市②23年3月③農林水産部
 - ▽大船渡港海岸永浜地区防潮堤①大船渡市②23年3月③県土整備部
 - ▽普金海岸防潮堤①大船渡市②23年3月③県土整備部
 - ▽大船渡港茶屋前水門①大船渡市②22年8月③県土整備部
- 〈復興まちづくり（まちづくり連携道路）〉
 - ▽県道大船渡綾里三陸線赤崎①大船渡市②22年6月③県土整備部 ※県道本線は21年度内に開通しており、三陸鉄道の跨線橋部分が22年度に開通する
- 〈復興道路等（復興関連道路）〉
 - ▽県道丸森権現堂線下船渡①大船渡市②22年7月③県土整備部
- 〈漁港〉
 - ▽音部漁港施設①宮古市②23年3月③農林水産部

崩壊対策予備設計を公告

赤畑地区 申請期限は17日正午

県沿岸広域振興局大船渡審査指導監は9日付で、赤畑地区急傾斜地崩壊対策予備設計ほか業務委託を公告した。同業務は、簡易総合評価落札方式（簡易2型）の対象案件となっている。申請書の提出期限は17日正午。入札は29日を予定している。（関連7面）

同業務は、住田町赤畑地区の土砂災害警戒区域および土砂災害特別警戒区域内における急傾斜地崩壊対策の検討行うもの。業務対象地域は同町世田米字赤畑地内で、委託期間は22年3月15日まで。

業務内容は、法面工予備設計1カ所のほか、基準点測量8点、現

地測量0.06平方メートル、路線測量0.32メートル、機械ボーリング6本、標準貫入試験6回、解析等調査一式となっている。

主な入札参加資格は、20・21年度建設関連業務競争入札参加資格者名簿に登録され、測量業務「地上測量」、地質調査業務「地質調査」、土木関係建設コンサルタント業務「河川、砂防および海岸」の全ての要件を満たしている者で、沿岸広域振興局（大船渡地区）の区域に本店または営業所（岩手県内に本店を有する者の営業所に限る）を有すること。

このほか、11年4月1日以降に、

ニュースの
お知らせは

〒020-0015 盛岡市本町通3-9-33
本社編集部へ
TEL (019) 623-8201
FAX (019) 623-8204

元請けとして基準点測量業務、機械ボーリングおよび解析等調査、法面工設計業務を受注した実績を有することなどを求めている。

半崎地区の落石・土砂流出対策設計を公告

＝久慈審査指導監＝

県北広域振興局久慈審査指導監は8日付で、簡易総合評価落札方式（簡易2型）で実施する「久慈港半崎地区臨港道路落石対策及び土砂流出対策調査・設計業務委託」を公告した。申請書の提出期限は16日正午で、入札は24日に行われる。

この業務は久慈港半崎地区臨港道路において、法面からの落石対策と、沢からの土砂流出（暫定）対策について、必要な測量や設計を行うもの。委託期間は22年3月15日までを予定している。

落石対策では、4級基準点測量2点、現地測量9000平方メートル、路線測量120メートル、法面工予備設計一式、落石防護柵詳細設計80メートルなどを実施。土砂流出対策では、現地測量400平方メートル、路線測量20メートル、貯砂施設応急対策1カ所などを行う予定となっている。

主な入札参加資格は、測量業務（地上測量）および土木関係建設コンサルタント業務（道路）に登録されている者で、県北広域振興局（本局）の区域に本店または県内に本店を有した上で営業所を有すること。2011年4月1日以降に元請けとして「擁壁・補強土設計」および「路線測量」の業務を受注した実績を有することなど。

書類到着期限は30日

＝山田町財政課＝

旧大沢小の解体工事

山田町財政課は9日付で、旧山田町立大沢小学校校舎解体工事を公告した。入札書類の到着期限は30日。（関連7面）

工事内容は、校舎、プールおよび付属棟他解体（校舎：RC造2階建て2278.52㎡、プール：RC水面積325㎡）、電気設備工事（電気設備解体）、機械設備工事（機械設備解体）。

工期は、予算繰越議案が町議会で可決され、かつ、工事に係る国庫補助金などの予算繰越手続きが完了した場合、2022年6月10日までとなる予定。

綾里漁港の港地区電気設備など

9日付で県、工事3件・業務1件公告

道の駅やまびこ館 空調機改修工事など8件

＝宮古市契約管財課＝

旧大沢小の解体など4件を公告

＝山田町財政課＝

三陸国道
事務所

公告・予告

県大船渡審査指導監

県沿岸広域振興局大船渡審査指導監は9日付で、総合評価落札方式で実施する綾里漁港海岸災害復旧（23災県第558号港地区電気設備）工事を公告した。入札参加希望者は入札参加申請書を電子入札

システムにより17日正午までに提出すること。入札は12月8日を予定している。
▽綾里漁港海岸災害復旧（23災県第558号港地区電気設備）工事（簡易2型）
施行地 大船渡市三陸町綾里字港地内
工期 2022年3月15日まで
工事内容 綾里漁港海岸、電気設備1式

いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える



それぞれが参加する避難訓練

岩手大学地域防災研究センター教授

福留 邦洋

先日、11月5日は津波防災の日でした。1854年（嘉永7年）に発生した安政南海地震の和歌山県（現在の広川町）において高台への避難を呼びかけた「稲むらの火」に由来して2011年6月の「津波防災の推進に関する法律」で定められています。この11月5日前後には全国各地で防災（避難）訓練が実施されたようです。県内でも防災訓練が予定され、ある地区の自主防災組織の会合に参加しました。

避難訓練には、積極的に参加する人、近隣の様子、動向をみて参加する人、周辺に迷惑をかけるので不参加の人、災害時には自身により避難するので（訓練）不参加の人などさまざまです。地区の会合においても不参加意向の人をどのようにして参加する方向へ促すかが焦点となりました。自主防災組織の役員や町内会の班長等は担当地区内の世帯を訪問し、訓練の開催と参加呼びかけを行っています。近隣の様子や動向をみて参加を判断する人には効果がありますが、不参加意志の人への有効な手立てを見出すことが難しくなっています。実際に訪問すると、身体の不自由等を理由に不参加とされる人が少なくありません。このような反応に対して事務的なやりとりで終始する、何とか参加する方策はないか根気強く話を聞き、説得するでは住民の方の意志、行動も異なるように思われます。

災害時の個別支援計画（個別避難計画）の策定が推奨されています。しかし、すべて自主防災組織や町内会、自治会等住民組織が検討し、作成することは困難な状況です。中には身体の不自由を晒したくない、知られたくないという人も少なくありません。

ただし、このような人でも日頃からつながりのあるデイサービス施設や社会福祉協議会等の職員、馴染みの民生児童委員であれば率直な意見交換が可能かもしれません。

また、災害時には自身で避難するので訓練には不参加という人は勤労世帯など若年層に多い傾向があります。アパートなど賃貸居住者は連絡が取りにくいようですが、この問題は防災訓練に限らず町内会などの活動にも影響しています。防災訓練への参加率の低下は、町内会、自治会、消防団など地域自治活動の課題とも重なるように思います。勤労世帯や高齢者の参加する動機が高まるよう、例えば、幼稚園児や小学生が参加する企画などを訓練に含めることも一案でしょう。

近年、自主防災組織の立ち上げや活性化がいはわれていますが、自主防災組織など住民組織だけで対応できることは稀です。行政や社会福祉施設などもできること、できないことを示すとともにやる気のある住民組織には少し努力を重ねて応援する姿勢が求められます。

誰の声、意見であれば対象者は耳を傾け、行動する傾向にあるか、訓練に参加しないことが気になること、参加せざるを得ない環境のあり方など、行政、支援者、地域住民等が情報を共有し、一緒になって取り組む必要があるでしょう。

※いわて防災学教室のバックナンバーは、岩手大学地域防災研究センターのホームページ「公開情報」で閲覧できます。

KOMATSU D37PXi-23 KOMATSU PC128USi-10

実証 スマートコンストラクション。

3Dデータで、建設機械と現場と人をつなぐ。経験の浅いオペレータが、整地に挑んだ。現場の仕事は、どこまで変わるのか。

これまでない現場も、これから現場にも、**SMART CONSTRUCTION**

「スマートコンストラクション」を説明します。
<http://smartconstruction.komatsu.co.jp/>
スマートコンストラクション 建築

コマツの試験場で、ある実験が行われた。昨年1年13月の若いオペレータに、水をイメージした油の油層や整地に挑んでもらう。彼らは、時には驚いた表情。サポートするのは、二台のICT建設機械。そして、「スマートコンストラクション」というICTソリューションだ。

ICTプラットフォームが土を掘り出した。指示データがすでにインプットされている。若いオペレータの仕事は、黄色い車体を前後に動かすだけだ。そう、機械がほぼ自動で作業を進めてくれる。油圧シリンダは、指先や手の甲を器用に使い、法面の斜めのラインをきいていく。本来なら、ベタコンにしかできないような精度と速度ではない。

結果は、この通りである。建設現場の常識が、いま大きく変わりはじめていく。

※建設現場の様子を、ぜひVRコードからご覧になりたい。

本社/〒020-0891 紫波郡矢巾町流通センター南2-9-5
TEL 019-638-1100(代)
<https://komatsu-iwate.jp/>

コマツ岩手株式会社
盛岡・花北・県南・水沢・釜石・大船渡・遠野・久慈・二戸・宮古